

Uila Apache Log4j脆弱性修正パッチ適用方法

Rev.3 2022/2

東陽テクニカ

情報通信システムソリューション部

本ドキュメントについて



- 本ドキュメントでは、Apache Log4jに関するCVE-2021-44228、CVE-2021-45046、CVE-2021-45105に対応する脆弱性修正パッチをご利用中のUila製品に対して適用する方法について説明します。
- 本ドキュメントの不明点などについては、東陽テクニカの営業担当者、または東陽テクニカUilaサポート窓口 (uila-support@toyo.co.jp)までお問い合わせください。

脆弱性修正パッチ適用手順

脆弱性修正パッチ適用手順概要

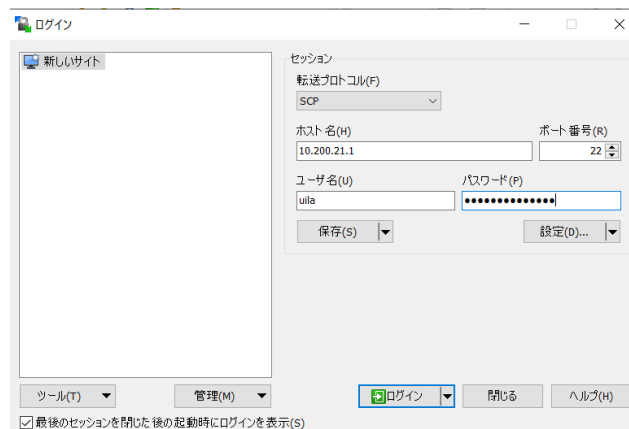


- 本脆弱性修正パッチ適用手順はUMASおよびvicに対してそれぞれ実施する必要があります。vicを複数ご利用いただいている環境の場合はすべてのvicに対して実施いただく必要があります。
- 本回避策のUMASおよびvicへの適用の順序に関する制限は特にありませんので、任意の順序で実施下さい。
- 各UMAS、vicへの回避策適用手順の概要は以下の通りです。UMAS、vicともに同一のファイルを使用して、同一の手順で実施いただけます。
 1. uila-log4j2-patch-2.17.0.tar.gzをパッチ適用対象のUMASまたはvicにscpでアップロード
 2. パッチ適用対象のUMASまたはvicにsshでログインして作業を実行
 - A) パッチ適用対象のUMASまたはvicにsshでログイン
 - B) rootユーザに権限昇格
 - C) uila-log4j2-patch-2.17.0.tar.gzを解凍
 - D) uila-log4j2-patchディレクトリに移動
 - E) run-patch.shを実行
- uila-log4j2-patch-2.17.0.tar.gzについては、別途ご案内する方法に従ってご入手ください。

1. uila-log4j2-patch-2.17.0.tar.gzをパッチ適用対象のUMASまたはvICにscpでアップロード



- パッチを適用する対象のUMASまたはvICのIPアドレスをvCenterなどから調べます。
- WinSCPなどのscpクライアントを使用して対象のUMASまたはvICにログインします。
 - 転送プロトコルはSCP、ポート番号は22を使用します。
 - UMAS、vICいずれの場合もユーザ名は"uila"、パスワードは"UilaNetworks@1"です。
- 別途配布しております uila-log4j2-patch-2.17.0.tar.gz を /home/uila ディレクトリにアップロードします。
 - 上記の"uila"ユーザでログインした場合、初期ログイン先ディレクトリは通常/home/uilaになっています。
- アップロードが完了したらscpは切断いただいて構いません。



SCPクライアントとしてWinSCPを使用した場合の接続設定画面例

2.パッチ適用対象のUMASまたはVICにsshでログインして作業を実行



A) パッチ適用対象のUMASまたはVICにsshでログイン

- 》 TeraTermなどのsshクライアントを使用してログインします。
- 》 ユーザ名は“uila”、パスワードは“UilaNetworks@1”を使用します。
- 》 上記の“uila”ユーザでログインした場合、初期ログイン先ディレクトリは通常/home/uilaになっています。

B) rootユーザに権限昇格

- 》 “su”コマンドを実行し、パスワードには“uilanetworks”を入力します。

C) uila-log4j2-patch-2.17.0.tar.gzを解凍

- 》 “tar xvzf uila-log4j2-patch-2.17.0.tar.gz”コマンドを実行します。

D) uila-log4j2-patchディレクトリに移動

- 》 “cd uila-log4j2-patch”コマンドを実行して、c)の手順で作成されたディレクトリに移動します。

E) run-patch.shを実行

- 》 “./run-patch.sh”コマンドを実行します。プロンプトが戻った時に、“Found un-patched jar! Failed.”または、“Invalid MD5 sum please verify the patch download is not corrupt!”というメッセージが出力の最後に表示されていなければ、パッチは正しく適用されています。

```
10.200.14.2 - root@uila-vic/home/uila/uila-log4j2-patch VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(O) ウインドウ(W) ヘルプ(H)
[ui-la@uila-vic ~]$ ls
[ui-la@uila-vic ~]$ cd uila-log4j2-patch
[ui-la@uila-vic ~]$ su
Password:
[root@uila-vic uila]# tar xvzf uila-log4j2-patch-2.17.0.tar.gz
uila-log4j2-patch/
uila-log4j2-patch/log4j-core-2.17.0.jar
uila-log4j2-patch/run-patch.sh
uila-log4j2-patch/log4j-slf4j-impl-2.17.0.jar
uila-log4j2-patch/log4j-1.2-api-2.17.0.jar
uila-log4j2-patch/md5sums.txt
uila-log4j2-patch/log4j-api-2.17.0.jar
uila-log4j2-patch/log4j-jcl-2.17.0.jar
[root@uila-vic uila]# cd uila-log4j2-patch
[root@uila-vic uila-log4j2-patch]# ./run-patch.sh
```

- 》 “./run-patch.sh”コマンドを再度実行してパッチが適用されたことを確認することもできます。この場合、“All Log4j2 jars are up to date no restart required”という表示が出ればOKです。

- 》 プロンプトが戻ったらsshクライアントを切断して手順は実行完了です。パッチ適用対象のUMASまたはVICがまだ残っている場合は、それらにもパッチを適用します。

コマンド実行画面例

“はかる”技術で未来を創る



東陽テクニカ



<https://www.toyo.co.jp/ict/products/detail/uila.html>